

経済経営学科

■入門

531001 経済経営地域デザイン概論

【到達目標】

- ・学科の学びである経済、経営、地域デザイン分野の専門科目の基礎的な知識を得る。
- ・この3つの分野を複合的に学ぶことの意義を理解する。
- ・それらが社会課題の解決にどのように貢献できるのかを理解する。
- ・自ら探究していきたい学問テーマを発見できる。

【概要】 学科の教員がチェーンレクチャー形式で1回ずつ担当するオムニバス授業。経済、経営、地域デザインの3つの分野について、それぞれの学問が何を目的とし、どのような理論や方法論を有し、それらがどのように社会課題の解決に貢献するのか、ということについて教授していく。経済、経営、地域デザインという3分野の融合体である本学科の特色を活かした構成となる。1年次の必修とすることで、全学生がすべての教員と一緒に学科講義の基礎的な知見を得ることを目指し、その後の専門科目の学習意欲を底上げする。

【経済学】

531002 ミクロ経済学入門

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の基礎的な概念と理論を正確に理解する。
- ・市場メカニズムの機能と限界を理解する。
- ・概念や理論と現実の経済の動きを比較対照する姿勢を身につける。
- ・概念や理論を現実に応用しようとする姿勢を身につけ、経済に対する問題意識を持つ。

【概要】 経済全体の動きを大きく捉えようとするマクロ経済学に対して、ミクロ経済学は、消費者や企業による消費や生産という身近な経済活動を出発点として、希少な資源の有効活用という問題に対して市場がどのような働きをしているのかを分析するものである。

「ミクロ経済学入門」では、経済学を専門としない学生も対象として、経済学的な考え方に慣れ親しむことから始める。その上で、基本的なミクロ経済学の知識を身に付け、現実の経済についての理解を深めることを目指す。

531003 マクロ経済学入門

【到達目標】

- ・複雑な現象を「抽象化」して理解する方法に慣れていく。
- ・マクロ経済学の基本的な用語、概念、理論を習得する。

- ・グローバル経済をマクロ経済学の視点から理解する。

【概要】 経済がグローバル化した今日では、一国で発生したマクロ経済問題が、瞬時に他国に影響を及ぼすことになる。そうしたマクロショックは金融システムや景気や雇用を通じて私たちの生活に影響を及ぼす。この授業の主軸は、マクロ経済学の基礎的な概念と理論を学ぶことであるが、金融政策と財政政策の観点から日本経済が直面する諸問題と課題を理解することを目指す。

【経営学】

531004 経営学入門

【到達目標】

- ・経営学の主要分野の基礎知識や理論を習得する。
- ・その基礎知識や理論を、身の回りで見聞きする企業（や様々な組織）に関する現象や問題へと適用して考えられるようになる。

【概要】 まず、企業は社会においてどのような活動をしているのか、その企業の中ではどのような活動が行われているのか、という企業経営の全体像を説明する。その上で、戦略論、組織論、マーケティング、人的資源管理論、財務管理、生産管理、国際経営など、経営学における各主要分野の基礎知識や理論を説明していく。また、企業経営の実態を深く理解する為に、理論を学ぶのみならず、実際の企業や組織の事例も題材とし、理論と実践の往復も多々行う。

531005 マーケティング入門

【到達目標】

- ・組織のマネジメントにおけるマーケティングの役割や機能を理解する。
- ・顧客価値、STP（セグメンテーション・ターゲティング・ポジショニング）、4P（製品、チャネル、価格、プロモーション）といったマーケティングの基礎的なコンセプトを理解する。
- ・基礎的なコンセプトを習得した上で、実在する商品のマーケティング・プランを分析し、評価できるようになる。

【概要】 マーケティングは、定義の進化と広い研究領域を持ち、経営での実践を併せ持つ、ダイナミックな学問である。近代マーケティングの構成は、マーケティング・マネジメントを中心に、マーケティング戦略、マーケティング・リサーチ、消費者行動論、プロダクト・マネジメント、広告論、流通論と、新しい展望領域（サービス、エコロジー等）に大別できる。この講義では、マーケティングを初めて学ぶ学生を対象に、近代マーケティング全体構成を把握し、実践的な例も交えながら、マーケティングの中核であるマーケティング・マネジメント、マーケティング戦略、プロダクト・マネジメントの理論の

習得を目指す。

【地域デザイン】

531006 公共政策論

【到達目標】

- ・ 公共政策とは何か、を社会科学の視点から学際的に理解する。
- ・ 公共政策における多様なステークホルダーの役割を理解する。
- ・ 公共政策における具体的な方法論や実践ツールを理解し、その運用について考察できる。

【概要】 中央政府や地方自治体、公共機関、非営利組織などにおいて、社会の諸課題の解決のために政策を構築、実践、評価していくプロセスを総合的に学ぶ。まずそれらに関連する理論を、経済学、行政学、法学、社会学などの視点から学んでいき、同様に、公共に関わる法律や規制、予算配分、市民参加などの現実的な実践ツールを理解していく。このように理論と実践の双方の知識を得ることにより、より良い政策とはどのようなものか、それはどのように実現可能なのか、について理解できるようになることを目指す。

531007 まちづくりとコミュニティ

【到達目標】

- ・ コミュニティの特性を理解する。
- ・ 人口減少時代におけるコミュニティ参加型まちづくり事例を理解する。
- ・ グループワークを通じてまちづくりの理論と実践を結びつける。
- ・ 学際的に社会学の方法論を運用できる。

【概要】 まちづくりの理論と実践事例を学びながら、「まちづくりとコミュニティ」について考察していくことを目指している。社会学的な方法論を元にコミュニティの特性を理解し、参加型もしくは協働を重視したまちづくり手法を学ぶ。また、グループワークにおいては、地域の課題を分析し、ディスカッションを通じてまちづくりの基礎への理解を深めていく。最終的には、グループごとにまちづくりに関するアイデアをプレゼンテーションする。講義とグループワークを通じて、まちづくりの理論と実践を結びつけ、参加や協働の経験とコミュニケーション能力を磨くことを目指す。

531008 サステナビリティとグローバル共生

【到達目標】

- ・ 現在の地球が直面している環境問題の多様性、複雑性をグローバルな視点で理解し、それらがローカルな課題とどのように関連しているのか説明できる。
- ・ 共生社会の障害となるその他の諸課題について理解する。

- ・「持続可能な開発」について、正しいリテラシーで説明できる。
- ・サステナビリティに関連する諸問題を理解し、社会学的な視点からその解決策を説明できる。

【概要】 地球環境問題、グローバリズムによる資源の不公平な配分、従来の経済システムの限界、人権問題、格差社会、紛争など、さまざまな環境・社会・経済的要素が複雑に絡む現代において、それらが「サステナビリティ」および「共生社会」の実現にどのように関連しているかを学ぶ。「Sustainable Development（持続可能な開発）」という概念を正しく理解し、国内外の事例を通して、グローバルな課題がどのように地域社会と関連しているのか、また解決のための方法論にはどのようなものがあるのか、について社会学的な視点から議論を深めていき、自らその解決のために考えることができるようになることを目指す。

■ 基盤講義

【経済学】

531101 初級ミクロ経済学

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の諸理論をグラフを用いて説明ができるようにする。
- ・ミクロ経済学の基礎を理解し、応用問題が解けるようにする。

【概要】 「初級ミクロ経済学」では、ミクロ経済学の基礎的な考え方を一通り学んだ学生を対象として、家計の効用最大化行動、企業の利潤最大化行動に関する基本的な概念を扱う。さらに、応用として競争政策、環境問題などの現実の経済問題を随所で紹介することで、この分野に対する洞察を深めることを目指す。また、本授業では「中級ミクロ経済学」への準備として、ミクロ経済学的な考え方を定着させ、計算問題にも対応できる実力を身につけることを期待する。

531102 初級マクロ経済学

【到達目標】

- ・IS-LMモデルを理解する。
- ・消費・貯蓄と投資の理論を理解する。
- ・景気循環および経済成長の理論をマスターする。

【概要】 「初級マクロ経済学」では、前期のマクロ経済学入門の内容をふまえて、貨幣の機能と概念、貨幣需要関数、ハイパードマネーと貨幣の供給、利子率の決定理論、IS-LM分析と財政・金融政策、インフレーションと失業率、国際マクロ経済分析、経済成長理論（ハロッド＝ドーマーモデルと新古典派の成長理論）、景気循環と経済政策などを扱う。毎回、

マクロ経済学の演習問題（経済学検定試験問題、公務員試験問題等）を解き、マクロ経済理論の理解が深まるよう配慮する。

531103 経済の数学

【到達目標】

- ・経済学で用いる基本的な数学を理解する。
- ・経済学を数学を使って理解するために必要な計算能力を身につける。

【概要】 「経済の数学」は、初級ミクロ経済学の知識を前提として、基本的な数学の手法を身につけることを目的とする。具体的には、微分や積分などの高校数学レベルまでの基礎や、期待値や現在価値などの経済学の重要概念を学ぶことで、数学的視点からミクロ経済学、マクロ経済学を理解することを目指す。本授業において数学はあくまで経済学を理解するための手段である。なお、難解な数学理論そのものを理解することまでは求めない。

531104 統計学

【到達目標】

- ・統計学の基礎をマスターする。
- ・統計処理の基本を身につける。

【概要】 「統計学」では、入門レベルの統計学を、毎回練習問題を解きながら、分かりやすく解説していく。具体的には、①変数の区別、②度数分布、③中心傾向の測度、④散らばりの測度、⑤ローレンツ曲線やジニ係数などのその他の測度などを取りあげる。受講者は自ら、講義のスケジュールに沿って社会科学分野の実際のデータを統計ソフトを用いて分析することで、解読するために必要な基礎的統計学の知識を習得することを目指す。

531105 財政学

【到達目標】

- ・財政理論の基本を学ぶことにより、日本の財政が抱える諸課題を理解する。
- ・日本経済の発展において公共支出、租税制度、政府間財政関係などが果たしてきた役割を学ぶ一方で、今日の財政運営で残された課題を明らかにし、これからの財政のあり方について考える力を養う。
- ・日本の財政が抱える諸課題は、先進諸国のみならずアジア諸国などとも多くの共通点が見られることを理解する。

【概要】 「財政学」は、租税や公債などによる財源調達（どのような方法で、何を基準に、何の名目で）をもとに、国民生活をささえる多岐にわたる政府の経済活動と、そのためにそれらをどのように効果的に用いるかについてを考察する学問である。講義では、公共投資や社会保障などの政府支出の経済的役割とその効果、租税を中心とする資金調達のあり方、さらには地方財政や国と地方の財政関係の役割などについて経済学をベースとした財

政の分析を試みる。

531106 公共経済学

【到達目標】

- ・完全競争市場の理論だけでは分析できない現実の問題へのアプローチを可能にする。
- ・市場経済に対する公的介入の意義と限界について理解する。
- ・社会システム全体の分析・評価手法を習得する。

【概要】 市場メカニズムによる資源配分が行われた場合、不十分、もしくは不適切な結果が生じる場合がある。「公共経済学」では、このような市場の失敗の存在を理由として、公的に政策介入が必要とされる経済分野に関する理論を修得することを目的とする。本授業は、特定の産業に特化した議論を行うものではない。多様な経済政策を理解するための必須の経済理論を修得し、さまざまな政策の評価を行うための規範的分析について知識を深める。

531107 経済政策

【到達目標】

- ・交通問題・交通政策などの現実の経済活動を題材として、より現実的な社会問題を経済学的に理解できるようにする。
- ・交通問題・交通政策に限らず、広く社会問題を評価・分析する能力を養成する。

【概要】 これまでに習得した経済学の基礎理論、ならびに政策分析の手法として有効な公共経済学の理論をもとに、それらを現実の経済問題に適用することを目的とする。市場の失敗を理由とした公的介入が必要とされる公益事業における価格、投資、補助、規制の問題、または一国の経済成長を促すための政策の背景にある経済モデルなどに関して、具体的な事例を示しながら議論を行う。実際に経済政策を例示することで、理論と現実の乖離についても理解を深める。

【経営学】

531108 経営戦略論

【到達目標】

- ・事業戦略と全社戦略の基礎的な概念や理論を習得する。
- ・習得した理論を応用しながら、実際の戦略の事例を検討し、周囲の受講生と議論できるようになる。
- ・特に、なぜその企業（事業）の戦略は成功したのか、または失敗したのかについて、論理的に説明できるようになる。

【概要】 この講義では、経営戦略における基礎的な概念や理論を習得するとともに、実際

に産業や企業を分析することで理解を深めていく。優れた戦略とは、極めて論理的であることが分かる。それゆえ、この授業では論理的な思考を重視する。最終的には、新聞や雑誌などでみる企業の事例について、なぜその企業（事業）の戦略は成功したのか、または失敗したのか、背後にいかなる戦略の論理があったから成功したのか、逆にいかなる論理が欠如していたから失敗したのかを考えていく。なお、概念や理論の習得と現実の問題への応用の為に、授業中に事例を用いた分析やケース・ディスカッションも行う。

531109 経営組織論

【到達目標】

- ・組織のミクロ理論とマクロ理論を習得する。
- ・習得した理論を応用しながら、実際の組織の事例を検討し、周囲の受講生と議論できるようになる。
- ・さらに、組織（民間企業のみならず、部活やサークルなど、身の回りで自身が所属する組織など）を運営するマネージャーやリーダーの視点をもって組織の問題を分析し、解決案を提案できるようになる。

【概要】 組織のマネジメントを考えた場合、組織目標の達成に向けてエネルギーを引き出すべく組織内の人材へ働き掛けると同時に、昨今の変化の激しい組織外の環境へ上手く適応するべく組織の仕組みを設計することが重要となる。したがって、この講義では、個人の動機づけなどといったミクロの組織論から、組織設計を考えるマクロの組織論までを対象とする。それらの主要な理論や概念を習得し、応用しながら、実際に組織を運営するマネージャーの視点をもって組織の問題を考えて分析していく。なお、概念や理論の習得と現実の問題への応用の為に、授業中に事例を用いた分析やケース・ディスカッションも行う。

531110 会計学基礎

【到達目標】

- ・会計基準や会計制度など、会計学の基礎的な知識や理論的枠組みを理解する。
- ・社会の様々な主体との関連で、企業の会計情報の重要性を理解する。
- ・実際の企業の会計情報を基に、経営実態を分析し、説明できるようになる。

【概要】 会計は、企業経営や世の中の経済的事象を分析する際に必要な知識である。会計情報は、企業内部はもちろん、投資家、債権者、取引先、税務当局などの企業外部の様々な利害関係者に対して、企業の経済活動の実態を報告することを目的とした情報である。この講義では、会計学を学ぶ上で基礎となる理論的枠組みを理解した上で、実際に企業が公表する会計情報に基づき、企業の経営実態を実践的に分析し、説明できる能力を身につけることを目的とする。

531111 ファイナンス基礎

【到達目標】

- ・コーポレートファイナンスの基礎的な知識や理論的枠組みを理解する。
- ・新聞や雑誌等のメディアが報道する企業の財務的な意思決定の背景にあるメカニズムを理解する。
- ・さらに、そのような実際の企業の財務的な意思決定を分析し、評価できるようになる。

【概要】 この講義では、企業のファイナンスの基礎を学ぶ。企業の投資、資金調達、利益還元、企業価値の評価に関する、いわゆるコーポレート・ファイナンスの基礎的な理論を習得した上で、企業価値の向上のための様々な財務的な意思決定について理解する。具体的には、投資の意思決定、資金調達の意思決定、利益還元の意思決定を取り上げる。最終的には、コーポレート・ファイナンスの観点から企業の経営実態が理解できる能力を身につけることを目的とする。

【地域デザイン】

531112 コミュニティと情報メディア

【到達目標】

- ・グローバル化による社会の再編、文化の再編にかかわる情報メディアの知見を理解する。
- ・情報メディア論のキートピックについて知識を得る。
- ・地域メディアの現況について社会学的な視点から考察ができる。

【概要】 多様化する（多義化する）メディアについての近年の捉え方を参考にしながら、メディアとコミュニティの関係性を考えることを目的とする。また、CMやマスメディアなどの情報メディアについては、昨今、ジェンダーの視点から考えることの有効性が指摘されていることを踏まえ、CMをめぐるジェンダーイメージ、メディアスポーツの消費とコミュニティ、インターネット空間における女性ユーザーの居心地の悪さなど、ジェンダーの視点を通じてメディアとコミュニティを捉え直すことも目指す。また地域コミュニティはもとより、メディアが生み出す新たなコミュニティも視野に入れながら、メディアとコミュニティについて社会学的な視点から分析し、理解していく。

531113 官民パートナーシップ

【到達目標】

- ・官民パートナーシップの概念や定義、手法、基本原則を理解する。
- ・官民パートナーシップの実践に必要な方法論と具体的な仕組みを理解する。
- ・官民パートナーシップが、どのような形で共創社会の構築に貢献するのか説明できる。
- ・官民パートナーシップの効果を評価する手法を理解する。

【概要】 共創が重視される現代社会において欠かせない官民パートナーシップ（Public-

Private Partnership: 以下 PPP) とは何か、まずその定義や目的、課題、手法、基本原則、種類などを理解することを目的とする。その上で、PPP の実践を理解するために、先進事例また失敗事例を国内外から学び、欠かせない要素や課題について学生自らが抽出できるようにする。さらに地域社会で PPP を実践するに当たって重要な法的手続き、資金調達などの仕組みを学んでいく。また社会学の方法論を用いて、PPP の効果を評価する手法も学ぶことで、地域社会に貢献する PPP のあり方を提案できるようになることを目指す。

531114 観光法制度論

【到達目標】

- ・観光法制度に関する基本用語を理解し説明できる。
- ・観光分野の法制度の概要と最新動向を説明できる。
- ・観光分野において、法制度、ビジネス・産業、地域・コミュニティが相互に影響を及ぼす関係にあることを理解する。

【概要】 観光立国推進基本法、旅行業法、旅館業法、通訳案内士法、休暇・休日に関する法制度、景観・歴史まちづくりに関する法制度などの観光関連の法規・制度の概要について講義し、観光行政、観光ビジネス、観光地域づくりを理解する土台となる知識を習得することを目的とする。あわせて、観光法制度の変遷や最新の動きを具体的な事例を通じて分析し、法制度、ビジネス・産業、地域が互いに影響を及ぼしあう、動的な関わりがあることを講義する。

■発展講義

【経済学】

531201 経済史

【到達目標】

- ・18 世紀からのイギリスを中心とした西ヨーロッパにおける市場経済の成立の検討を通じて市場経済の特徴を理解する。
- ・19 世紀末からのアメリカにおける市場経済の発展の検討を通じて現代経済の原型を理解する。
- ・生産構造の変化とともに消費構造が変化したことを理解する。

【概要】 現代経済の基盤である市場経済の成立と変容を、世界市場との関連を意識しながら概観する。講義内容は、1. イギリスを中心とした西ヨーロッパにおける市場経済の成立プロセスを、工業資本と商業資本双方の役割に焦点を当て解説する。2. 現代経済の原型ともいえるアメリカにおける市場経済の発展を考察する。3. 開港期から高度成長に至る日本経済の発展を、後発国の市場経済化の問題として検討する、の3つの部分に分かれる。い

ずれのケースでも、生産分野での変化が消費者の生活をどのように変化させたのかという点にも着目する。

531202 中級ミクロ経済学

【到達目標】

- ・ミクロ経済学の諸理論を数学的な表現を使うことによって理解できるようにする。
- ・現実社会における基本的な経済現象をミクロ経済学の考え方によって分析・理解ができるようにする。
- ・ミクロ経済学の基礎理論を十分に修得することにより、応用経済学への発展が容易にできるようにその環境を整えること。

【概要】 ミクロ経済学の初級程度の知識を持つ学生を対象に、ミクロ経済学理論を数学的にとらえ直し、より多面的に、より深くミクロ経済学を理解することを基本的な目的とする。この科目でいう「ミクロ経済学」とは、「マクロ経済学」と双璧をなす「理論経済学」であり、経済学を専攻する学生は必ず知っていなくてはならない基礎理論のことである。この基礎理論を習得することにより、経済学の方法論に基づいた社会問題の分析能力を養成する。オーソドックスなミクロ経済学の構成にしたがって講義は展開される。

531203 中級マクロ経済学

【到達目標】

- ・マクロ経済学を数学モデルを用いて理解する。
- ・現在の経済状況をマクロ経済モデルを用いて分析することが出来る。
- ・統計的理論をマスターする。

【概要】 「初級マクロ経済学」を学んだ学生を対象に、中級レベルのマクロ経済学について、発展的に学ぶ。講義は、①初級レベルのマクロ経済学の復習、②国民経済計算の考え方と方法、③GDPの決定理論、④IS-LM分析（生産物市場の均衡とIS曲線、貨幣市場の均衡とLM曲線）、⑤AD-AS分析（総需要・総供給モデル）、⑥経済成長理論、⑦国際マクロ経済、⑧環境経済学、⑨日本経済の分析、⑩経済学の諸問題、の順に進めていく。

531204 日本経済論

【到達目標】

- ・戦後の日本経済の発展において、地域経済や地域政策の果たしてきた役割について理解する。
- ・効率的な地域政策を進めるにあたって、国および地方公共団体はいかなる形で公共サービスを提供し、政策的コミットメントをすべきなのかを理解する。
- ・地方財政および財政ガバナンスの学習を通して、地方公共団体の役割と「政府の失敗」の課題について理解する。

【概要】 日本経済のグローバル化が進む中で、地域経済や地方公共団体が行う地域政策や財政政策の果たすべき課題や役割に関して経済学的視点から考察を行う。まず、戦後の日本経済の発展において、地域経済や地域政策の果たしてきた役割について学習を行った後、地域政策のあり方を経済学的視点から考える。そこでは、都市規模の決定に関する経済理論や、地域独占、外部性、地方公共財等の「市場の失敗」理論などを学ぶことにより、開かれた経済活動における地域経済と経済政策のあり方を考える。続いて、こうした地域政策を効率的に進めるにあたって、国および地方公共団体（地方政府）はいかなる形で公共サービスの提供や政策的コミットメントをすべきなのか、地方財政および財政ガバナンスの学習を通して地方公共団体の役割や「政府の失敗」の課題を考える。

531205 国際経済学

【到達目標】

- ・国際金融の理論、制度、歴史について理解する。
- ・金融危機と実態経済との関連を理解する。金融危機とマクロ経済政策との関連を理解する。
- ・国際経済の現状を把握する上で不可欠な統計指標を読み解く。
- ・国際経済学を学ぶことを通じて、日本経済について考えることが出来る。

【概要】 国境を越えるヒト、モノ、カネ。私たちはいやおうなく進行する市場経済化とグローバル化のただ中にいる。この講義では、国際金融の基本的な概念、理論、制度を学びながら、戦後の国際金融史上に残る巨大なマクロ経済ショックの事例を分析し、現代的な経済危機への対策を考える。また、多様化するデリバティブ、巨大化するファンド、複雑化する証券化商品、会計基準の国際標準化、IMF の役割など、現代の国際金融を大きく揺さぶるアクターの動向に注目する。

531206 開発経済学 I

【到達目標】

- ・Development（開発/発展）とは何か。その定義をめぐって展開された議論を習得し、その意義を理解する。
- ・開発/発展の現状を客観的に把握する指標を身につける。
- ・人間や企業の行動（ミクロ）及び一国経済の動き（マクロ）を読み解くための主要な理論を習得する。
- ・ジェンダーの視点を統合した分析を習得する。

【概要】 開発経済学は、人々の生活や人生に多大な影響を及ぼす貧困や経済格差の問題を扱い、その原因を一国及び地球規模で分析し、より良い経済発展の方法を探るための学問である。「開発経済学 I」では、貧困や格差の計測手法と開発理論の発展過程を学ぶ。適宜事例研究をもちこみ、実態の紹介も行う。また、ガバナンス（行政機構の規律と能力）の

欠落、民主主義と法の支配、ジェンダー（社会的文化的性別）、環境破壊、紛争といった今日の問題との関連を検討する。

531207 計量経済学

【到達目標】

- ・計量経済学の基礎となる統計的理論をマスターする。
- ・収集したデータに基づいて、重回帰分析やパネルデータ分析等ができるようになる。
- ・統計解析ソフトウェアを用いて、実証分析ができるようになる。

【概要】 統計解析ソフトウェアを用いて、統計分析を実践する方法を講義する。中心的傾向の測度、散らばりの測度から出発し、確率変数と確率分布、平均や比率などの推定とその検定、さまざまな種類の相関係数とその検定、回帰分析まで取り上げる。卒業論文の作成に役立つよう、毎回さまざまなデータを使用した分析を行う。なお、講義は、受講学生が統計学、コンピュータに対する知識を持たないという前提で進めるものとし、毎回、情報処理教室で行う。

531208 環境経済学

【到達目標】

- ・環境問題をミクロ経済学の視点から理解する。
- ・環境問題に適用する政策について理解をする。
- ・環境問題、資源制約などの知識を得る。

【概要】 環境問題をミクロ経済学の枠組みにあてはめることにより、問題発生メカニズムや解決のための政策手法について学ぶことを目的とする。また、四大鉱害や四大公害など我が国で発生した環境問題や、気候変動問題について、歴史的背景、経済的背景から発生メカニズムを理解し、さらにこれらの問題に対する国内外で行われている諸政策について知識を深める。本講義では経済学の考え方にに基づき、発生した問題を最小の費用で解決し、持続可能な発展を実現するための手法を模索する。

531209 労働経済学

【到達目標】

- ・労働経済学に関する基礎的な理論モデルを理解する。
- ・1990年代以降に発展した多様な新しい働き方を理解する。
- ・労働経済学の視点から、現実の労働問題を読み解き、評価できるようになる。

【概要】 「労働経済学」では、「働くこと」とは何かに焦点を当て、その諸側面を家計・企業・一国の経済現象の中で包括的に捉えることを目的とする。基本的な理論枠組みを理解し検証するためには、それにふさわしい新しい資料や統計手法が求められる。そのため講義ではできるだけ、現実の社会に見られる労働の具体的な諸現象を題材にして、新しい

資料や統計手法の紹介も含めて労働経済学のトピックスを取り上げていく。特に女性労働に焦点をあて、女性が労働者として直面する現状と課題を理論と実証研究の両面から講義する。

531210 金融論

【到達目標】

- ・企業や家計の様々な金融ニーズと金融仲介機関の果たす役割を理解する。
- ・代表的な金融市場における参加者、価格形成、金融政策の影響を理解する。
- ・サステナブルファイナンスの拡大、デジタル化に伴う新たな担い手や仲介手段の登場など金融の新たな潮流を理解する。

【概要】 金融は経済活動の血液とも言われ、経済と表裏一体である。私たちが経済活動を営む際に、そして実りある人生を送る上でも金融に関するリテラシーを高めることは不可欠である。本講義では、まず、株式や債券などの金融商品の価格決定理論やポートフォリオ理論などを踏まえた上で、金融市場の仕組みに対する理解を深めていく。コーポレートファイナンス理論を学びつつ、企業による様々な資金調達手法とその経済・金融システムにおける意義を学ぶことも現代の金融論における重要な論点である。また、「人生 100 年時代」とも言われる中で、企業だけでなく私たち個人にとっての、ライフステージに応じた資金の調達や運用のあり方についても学ぶこととする。加えて、金融機関経営を取り巻く様々な論点や課題、気候変動問題やデジタル化による金融ビジネスモデルへの影響についても多面的に検討したい。

531211 産業組織論

【到達目標】

- ・市場構造の違いにより、企業の行動が異なり、その結果、価格と社会的厚生が異なることを理解する。
- ・寡占市場における企業行動がゲーム理論によって分析可能であることを理解し、解の求め方を習得する。
- ・コンテストブル市場の理論を理解する。

【概要】 産業組織論は反独占政策の基礎理論として発展した応用ミクロ経済学の一分野であり、市場構造と市場成果の関連をめぐって、ハーヴァード学派とシカゴ学派のあいだで激しい論争が繰り広げられてきた。この講義では、第 3 の潮流として 1970 年代に一躍主流派に躍り出た、ゲーム理論の成果を取り入れた新しい産業組織論（New Industrial Organization Theory）の基本事項を学び、企業の戦略的参入阻止ゲームを考察する。さらに、コンテストブル市場の理論を概観し、ネットワーク経済について考える。

531212 ゲームの理論

【到達目標】

- ・ゲーム理論とは何か、概略を理解する。
- ・戦略形ゲームについて、解法を習得する。①支配される戦略の連続消去による支配戦略均衡、②最適反応戦略による純粋戦略ナッシュ均衡③混合戦略ナッシュ均衡④連続形ゲームのナッシュ均衡・展開形ゲームについて、後ろ向き帰納法による部分ゲーム完全均衡の解法を習得する。
- ・無限繰り返しゲームの長期的関係を理解する。
- ・不完備情報ゲームにおける、純粋戦略ベイジアン・ナッシュ均衡の解法を習得する。
- ・簡単なゲームをモデル化し、分析・考察できる。

【概要】 ゲーム理論は、集団において、何らかのルールに従って行動する複数の主体の意思決定が戦略的に相互に影響を及ぼし合う状況を分析する。この主体間の相互依存関係を取り扱うゲーム理論は、経済学にとどまらず、経営学、政治学、社会学、さらに生物学等、広範な分野で有効な分析道具となっている。とりわけ、不完全競争市場における企業等の戦略的行動を分析するミクロ経済学の習得には必須であろう。この授業では、身近な経済の例を用いて、わかり易く解説する。

531213 企業の経済学**【到達目標】**

- ・企業戦略をミクロ経済学の枠組みで説明することが出来る。
- ・寡占市場における企業行動について理解している。
- ・政府による産業政策について理解することが出来る。

【概要】 「企業の経済学」は現代社会の企業行動そのものを対象とするミクロ経済学の応用分野である。企業の経営戦略を経済学的に理解することを目的として、事業の多角化戦略や国際展開、また、我が国のさまざまな産業、中でも寡占市場における企業間競争の仕組みなどについて理解を深める。価格による競争、差別化による競争、参入阻止戦略など、具体的な企業戦略の事例を交えて説明することで、経営学と経済学との橋渡しをする授業である。

531214 都市・地域経済学**【到達目標】**

- ・日本の地域構造についての知識を得る。
- ・都市の成立過程について経済学の視点から理解する。
- ・都市・地域の直面する諸問題とその解決方法について知識を得る。

【概要】 都市の空間的経済構造に対してミクロ経済学の分析手法を用いて理解することを目的とする。まず、都市の成立、発展の諸要因について知識を深め、経済活動の立地と土地利用に関する理論を学ぶ。さらに、現代社会が抱える土地問題、住宅問題、都市交通

問題などの個別のテーマについて知識を深め、この諸問題に対する政府の役割について考える。必要に応じて地域分権化の流れを受けたまちづくりの現状や都市の設計等、日本の地域や都市の現状についても具体的に言及する。

531215 ジェンダーの経済学

【到達目標】

- ・フェミニスト経済学の分析視覚と理論に対する理解を深める。
- ・ケア労働（家事、育児、介護など）に関する知識を深め、ケア労働とマクロ経済との関係を考察する能力を養う。
- ・予算のジェンダー分析枠組や分析方法を理解する。

【概要】 この授業では、主流派経済学が構築した理論やそれに基づいて構築された諸制度に関して、ジェンダー視点から分析するための方法を学んでいく。まずフェミニスト経済学の分析視角や理論展開を学び、その理論を実証分析に活用する方法を検討する。具体的には、GDP や失業といった概念の見直し、統計の問題、家庭内における利害対立及び意思決定のゆがみ、性と生殖および結婚に関する行動、人口問題、政策の帰着分析などを取り上げる。

531216 福祉の経済学

【到達目標】

- ・人間にとっての福祉とは何か、幸せとは何かという本質的な問いかけに対する答えを見つけようとする姿勢を身につける。
- ・少子高齢化に伴う問題の本質を見極める。
- ・格差とは何かを考えることができるようにする。

【概要】 少子高齢化の進展による介護の問題や育児の問題、格差の問題、ワーキングプア の存在など、福祉に関わる問題はより深刻になりつつある。この講義では、経済学の考え方に基づいて、これらの問題を感情的にはなく、論理的に冷静にとらえることによって、問題の本質を分析し、政策提言に結びつけていくことを目的とする。そのためには市場の失敗や所得分配の公正の理論など、発展的な分野での経済学の学習が必要であるので、これらとも併せて考察する。

531217 現代経済論

【到達目標】

- ・現実に見られる企業行動の現象を理解し、分析することができるようになる。
- ・市場経済がどのような場面で有効に機能し、そして有効に機能できないか、ということが判断できるようになる。
- ・実際の政策提案への展望ができるようになる。

- ・より現実的な経済問題に論理的（特に数学的）思考を的確に当てはめることができるようになる。

【概要】 現代日本を取り巻く経済問題はより一層複雑になってきている。こうした経済問題に対する処方箋として提案される主張は百家争鳴の感があり、正反対の主張がなされることもある。本授業においては、これらのさまざまに提案される主張を整理するために、経済学の考え方を活用し、経済学の観点からそれらの主張の本質を明らかにすることを目標としている。本授業を履修することによって、一見複雑に見える多くの提案の内容を解きほぐす能力を身につけることを目指す。

531218 新興地域経済論

【到達目標】

アフリカ、または南米諸国の経済について、

- ・制度・経済の基本を理解している。
- ・歴史、政治・法律、経済・社会等に関する個別専門分野の諸課題について、問題意識を持っている。
- ・経済政策をミクロ経済学、またはマクロ経済学の視点に基づいて理解している。

【概要】 「新興地域経済論」は、主に現代のアフリカとラテンアメリカを対象として、同地域の社会が直面する諸問題を分析・提示し、その生成と変化の要因を理解することを目的とする。豊かな資源に恵まれながら紛争や感染症や環境破壊の影響を受けるアフリカ地域や、米国の影響下からの脱却を図ろうとするラテンアメリカ地域などを取り上げ、これらの地域の歴史的背景、実体経済と金融、経済の現況と経済政策の方向性、世界経済へのインパクトを考察する。

531219 アジア地域経済論

【到達目標】

アジア諸国の経済について、

- ・制度・経済の基本を理解している。
- ・歴史、政治・法律、経済・社会等に関する個別専門分野の諸課題について、問題意識を持っている。
- ・経済政策をミクロ経済学、またはマクロ経済学の視点に基づいて理解している。

【概要】 「アジア地域経済論」は、世界第2位の経済大国となった中国や堅調な成長を続けるインド、経済成長著しい東南アジア諸国、そして日本、韓国を含めた東アジア地域の経済の現状について学ぶことを目的とする。すでに経済成長を遂げた国々における経済、社会の変容、これから発展が予想される国々への各国の支援、また、各国における政治と経済の関係、世界における同地域の位置づけ等、幅広い議論を行うことで各国経済の現状に対する理解を深めることを目指す。

531220 国際地域経済論

【到達目標】

アメリカ、またはEUに関して、

- ・制度・経済の基本を理解している。
- ・歴史、政治・法律、経済・社会等に関する個別専門分野の諸課題について、問題意識を持っている。
- ・経済政策をミクロ経済学、またはマクロ経済学の視点に基づいて理解している。

【概要】 「国際地域経済論」は、欧米諸国の経済政策を中心に、その歴史的、文化的背景とともに理解を深めることを目的とする。具体的には米国における需要サイド重視の経済学から供給サイド重視の経済学へと移行した戦後の経済政策について、EUについては経済統合とその後の拡大、英国の脱退など、現状と直面する問題について扱う。このような議論を行うにあたり、地域の政治的制度や歴史的背景を展望することで、各国経済の現状に対する理解を深めることを目指す。

531221 日本経済史

【到達目標】

- ・市場が深化することによって経済が成長するメカニズムを理解する。
- ・そのメカニズムに基づいた経済成長の帰結は、各国の歴史的経緯によって様々に変化するという事実を、日本やヨーロッパ諸国との比較を通じて具体的に理解する。
- ・各国の経済成長のレベルを比較する方法を理解する。

【概要】 この講義では、近世から近代の日本を対象に、経済成長とその源泉、成長のプロセスと帰結を、比較史的に検討する。日本経済の成長プロセスを追うことによって、経済発展論の基本概念を学ぶとともに、それらの概念を比較史の文脈で理解することがこの講義の目標である。具体的には、国際経済の枠組みの中での先進経済とのかかわり、政府の果たした役割、在来産業と近代産業および都市と農村との関連、資本・労働・スキルの変化などを検討する。

531222 保険論

【到達目標】

- ・保険の原理や意義・役割を学ぶことで、保険が私たちの身の回りにあるリスクから守るための有効な手段であることを理解する。
- ・金融危機や社会現象等が、いかに保険業の動向に影響するかを理解する。

【概要】 私たちの生活は、交通事故、火災、地震、疾病、高齢化など様々なリスクにさらされている。これらのリスクから私たちを守るために、保険は必要不可欠な存在である。この授業では、保険の意義と役割について、リスクマネジメントと保険、私保険と社会保

険、保険料のしくみといった基礎から解説し、火災保険・自動車保険・第三分野の保険（医療・傷害・介護）・生命保険（年金を含む）の意義と役割を考察し、最近の保険業の動向と問題点を検討する。

531223 証券論

【到達目標】

- ・ 基本的な証券および証券市場の知識を習得できる。
- ・ 日本経済新聞の証券面をほぼ理解する。
- ・ 二種証券外務員資格試験に合格するための基礎知識を習得する。

【概要】 「貯蓄から投資へ」の流れの中で、証券市場を取り巻く環境は大きく変わってきている。この授業では、証券市場が私たちの生活・ライフプランにどのように関わっているのかを具体的に検討する。まず、金融・証券の基礎知識を解説し、証券市場の役割とその歴史の変遷を概観する。次に、証券関連規制の緩和が証券会社に及ぼした影響や、個人投資家の増大が証券市場に及ぼした影響など、最近の変化を踏まえた上で、証券投資の心構え、資産運用について学習する。

【経営学】

531224 経営管理論

【到達目標】

- ・ 経営管理に関する古典的な学説やその流れを理解する。
- ・ ヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源の管理の観点から、組織のマネジメントの基本的な考え方を習得する。
- ・ 特に、「ヒト」の管理に関して、管理する側である「組織」と管理される側の「ヒト」の双方の視点からの理解を深める。

【概要】 経営管理とは、一般的には企業などの経営組織が、ヒト、モノ、カネ、情報といった経営資源を用いて、組織の目的を達成しようとする活動を指す。この講義では、主に「組織」と「ヒト」に関する管理の方法に関する理論や概念を主に取り扱う。具体的には、まず、古典的な経営管理論の系譜を辿り、現在に至るまでに構築された理論や概念に関する大きな流れを学ぶ。その上で、近年注目されている主要なトピックを中心に、管理する側である「組織」と管理される側の「ヒト」の双方の視点から考察する。

531225 人的資源管理論

【到達目標】

- ・ 従業員を採用し、育成し、やる気を引き出すために使われる人事の機能について理解できるようになる。

- ・人事の取り組みが組織に与える影響を計算する方法を習得する（例：離職によるコスト、研修プログラム、報酬や福利厚生パッケージ）。
- ・仕事に関連する最新の動向を、理論に基づいて説明できるようになる。

【概要】 この講義では、人的資源管理の基礎を学ぶ。人的資源管理は、組織内で人材を活用し成長させるための重要な考え方である。講義では、人的資源管理の歴史的変遷や基本的な役割・機能を学ぶ。さらに、組織が従業員を採用・育成・評価・報酬・労働関係の面でどのように管理するかを学ぶ。効果的な採用プロセスや人材戦略、従業員の成長やトレーニングの重要性、労働法や報酬制度にも触れる。また、給与制度や福利厚生、労働環境の管理についても学ぶ。講義を通じて組織の考え方を理解し、将来の就職活動やキャリア形成に役立てられるようにすることを目標とする。

531226 消費者行動論

【到達目標】

- ・消費者の購買の意思決定のプロセスを理解する。
- ・消費者行動に影響を与える要因（内的要因と外的要因）を理解する。
- ・消費者行動の理論を企業のマーケティング戦略との関連で理解し、有効なマーケティング手法を提示する。

【概要】 この講義では、消費者はどのようにしてモノやサービス、ブランドを選択し、消費するのかを論理的に理解する。消費者の行動を理解することは、企業がマーケティング戦略を策定し実践していく上で重要な知見となる。講義では、まず、消費者行動論の基礎的な知識や理論を習得する。その上で、購買の意思決定に影響を与える消費者個人の行動原理や心理的機能およびプロセスについて、演習やグループワークも取り入れながら、実践的な事例を分析し、議論する。

531227 ブランド論

【到達目標】

- ・ブランドおよびブランディングとは何かを説明できるようになる。
- ・ブランディングの理論を基に、実際の企業のブランディングやブランドエクイティを分析し、評価できるようになる。
- ・企業のマーケティング戦略との関連で、自ら有効なブランディングを提案できるようになる。

【概要】 日本を含めた先進国では消費財が市場に多く存在し、企業間の競争環境も激しくなる中で、ブランディングが重要なマネジメント要素になっている。この講義では、マーケティングについての基礎的な理解を前提として、企業のブランドのマネジメントを検討する。具体的には、ブランドの創出、市場での浸透、維持、そして拡大といったブランディングの活動の理論を体系的に学び、演習やグループワークを通して実践的な知識の運用

も目指す。

531228 流通論

【到達目標】

- ・企業がマーケティング活動を行う上で基礎となる、流通の基本的機能や流通業の実態や活動を理解する。
- ・グローバル化や情報化の進展といった市場環境の変化が流通に与える影響を理解する。
- ・流通に関する基本的な理論を習得するとともに、実際の事例を検討し、周囲の受講生と議論できるようになる。

【概要】 この講義では、モノ（具体的な商品）の生産から消費に至る基本的な流通のプロセスを取り扱う。特に流通の基本的機能を理解した上で、流通業（小売業・卸売業）の実態、そこで行われている活動について検討する。現代は、グローバル化、情報化などによって市場環境が変化している。例えば、外資系企業やオンライン店舗の市場参入は日本の流通を大きく変えつつある。この講義では、流通に関する基本的な理論を踏まえて、そうした近年の具体的な動向についても分析できる能力を育成する。

531229 組織行動論

【到達目標】

- ・組織論で学んだ知見を基に、組織行動論について基本的な理論を理解する。
- ・実務の事例を組織行動論の理論で説明することができる。
- ・組織行動論の隣接領域である組織心理学や社会学、進化心理学の知見を習得する。

【概要】 組織行動論とは、組織内における人間の行動について、個人・集団・組織行動に分類し、組織全体の生産性や業績を向上させる知見を提供する学問である。この講義では、組織心理学や社会学、進化心理学などの知見も横断的に整理しながら、組織行動論の理論について体系的に学ぶ。また、組織内で起こり得る多様な問題について、事例を引用しながら理解することにより、実務においてそれらの原因を特定し適切に解決する能力の習得を目指す。

531230 リーダーシップ論

【到達目標】

- ・主なリーダーシップ理論を習得した上で、状況や相手に応じてリーダーシップスタイルを調整する重要性を理解する。
- ・自分にとって快適なリーダーシップスタイルを特定し、それを更に強化する演習に取り組むことができる。
- ・これまで試したことのないリーダーシップスタイルにも取り組むことができる。
- ・これらの理論の習得、およびリーダーシップを強化する演習を英語で実践する能力を身

につける。

【概要】 現代のリーダーは、環境の変化に対応しながら、様々な利害関係者と協働し、多様なメンバーの能力を最大化させ、業績を達成することが期待されている。この講義では、時代とともに進化してきたリーダーシップに関係する様々な理論を理解した上で、経営者や管理職に求められる、あるべき姿や考え方、実践的な技術も習得していく。受講生自身のリーダーシップを強化する様々な演習にも取り組んでいくことで、理論と実践の両立を目指す。なお、この講義は全て英語で行う。

531231 財務管理論

【到達目標】

- ・財務管理の基礎的な理論を理解する。
- ・現実の企業の様々な財務的な意思決定について、財務管理的な観点から分析し、解釈できるようにする。
- ・企業価値を向上させるために必要な財務的な意思決定の考え方について、企業の管理者の視点から理解する。

【概要】 ヒト・モノ・カネ・情報の経営資源のうち、財務管理とは企業の「カネ」についてのマネジメントを指す。この講義では、ファイナンスの基礎科目で学んだ知見を基に、企業の資金調達と運用、経営の財務的側面の数量的な管理や評価、および成果の分配、それらに対する意思決定について学ぶ。さらに、株式の評価、多様化する資金調達の手段、配当政策、M&A、ストック・オプション、ポートフォリオ、株式の相互持ち合いといった問題も扱う。最終的には、企業の管理者の視点から財務の問題を考え、分析できるようになることを目指す。

531232 簿記論

【到達目標】

- ・複式簿記の仕組みを体系的に理解する。
- ・会計の基礎的な考え方と基礎的な用語を理解する。
- ・取引を仕訳することから財務諸表（貸借対照表と損益計算書）の作成までできるようにする。
- ・日本商工会議所簿記検定試験3級（商業簿記）の合格レベルの知識を身につける。

【概要】 この科目でいう簿記とは「複式簿記」をいう。複式簿記とは企業の経営活動を貨幣という共通尺度を用いて、記録、計算、作表する世界共通の技術体系である。会計学関係のみならず経営学関係の科目を学ぶ際の基礎となる科目である。具体的には複式簿記原理の理解、勘定科目ごとの仕訳処理、帳簿の種類と記帳の理解、決算時の仕訳処理、試算表や精算表の作成、損益計算書や貸借対照表の作成等を学習する。企業形態としては個人商店を前提とし、複式簿記の基礎的理解と技術を習得することを目標とする。

531233 財務会計

【到達目標】

- ・財務会計の概念や構造を学び、企業会計原則および企業会計基準を中心に関係諸法令も視野に入れながら、体系的に理解する。
- ・財務諸表を通じて企業経営の実態を見極めることができるようになる。
- ・具体的には、1) 財務諸表のうち主要な2表のしくみを習得し、その内容を説明できるようになる。2) 財務諸表を分析し、企業の収益性や安全性等を評価できるようになる。3) 一連の企業活動を会計の文脈で捉えることができるようになる。

【概要】 「財務会計」とは、株式会社において株主にその会社の資産状況や経営状況を報告し、政府に対しては納税に関する報告をするために必要な会計上の方法である。この講義では、会計学基礎で学んだ会計学の基礎的な知識や理論的枠組み、および簿記の基本的な考え方を身につけているという前提で、会計制度や会計基準の説明からはじめて、財務会計の基本的な方法、そして財務諸表等の作成や分析を通して企業の実態を見極めるスキルを養成する。

531234 管理会計

【到達目標】

- ・管理会計の概念や構造を学び、企業会計原則および企業会計基準を中心に関係諸法令も視野に入れながら、体系的に理解する。
- ・原価計算のスキルを習得し、企業経営の方針を確立できる能力を身につける。
- ・財務データを駆使して、企業の投資計画を考察できる能力を身につける。
- ・管理会計が社会的かつ経済的なシステムであることを理解すると同時に、管理会計が組織を構成する人々や企業の戦略的意思決定に与える影響を考察できるようになる。

【概要】 「管理会計」とは、企業がより良い成果を上げるために、会計データをどのように加工し、読みこなし、経営に活用するかを取り扱う「財務会計」に対応した分野である。この講義では、会計学基礎で学んだ会計学の基礎的な知識や理論的枠組み、および簿記の基本的な考え方を身につけているという前提で、原価計算の手法、投資計画の立て方、企業の各部門の経営パフォーマンスの測定手法などについて取り扱う。経営上のデータを漫然と眺めることなく、実践的に企業経営に役立てるためのノウハウを習得する。

531235 監査論

【到達目標】

- ・監査とは何かを説明できるようになる。
- ・財務諸表監査における基礎的諸概念を理解する。
- ・監査制度や監査の実務の全体像を学ぶことにより、監査の意義、あり方を考えることがで

きるようになる。

【概要】 この講義で取り上げる監査とは、株式公開会社の財務諸表の信頼性を保証する財務諸表監査である。講義では、監査の全体像を理解できるよう、財務諸表監査の基礎概念や理論と共に、監査の必要性、基本的な役割、法規制や制度やその実務を説明する。特に実務については、企業の業務プロセスにおける具体的な監査の実務にも触れながら、社会における会計監査の意義を深く理解することを目指す。なお、この講義の受講の際には、財務会計の基礎的な知識があることが望ましい。

531236 国際経営

【到達目標】

- ・国際経営論における基礎的な理論や概念を理解する。
- ・特に国境をまたぐ経営に特徴的な問題を意識しながら、戦略、組織、マーケティング、生産、研究開発、人的資源管理、財務といった主要な職能での課題を考えられるようになる。
- ・国際経営論における理論や概念を応用して、現実の企業や組織が直面する様々な経営課題を分析できる。

【概要】 国内市場の成熟化や、新興国市場の急速な成長などの経営環境の変化により、国境を越えた事業活動がますます重要となっている。この講義では、まず、企業活動の国際化と、国際的広がりをもつ経営のあり方を、戦略、組織、マーケティング、生産、研究開発、人的資源管理、財務などの理論的な視点から説明する。その上で、以前より国際化が進んでいた自動車産業、エレクトロニクス産業などの製造業や、近年になって国際化が顕著な流通・サービス産業など、様々な産業での国際経営の事例について検討していく。

531237 コーポレートガバナンス

【到達目標】

- ・コーポレートガバナンスを実現する要件、現状と今後の課題について正確に理解する。
- ・当局や議決権行使助言機関の動き、機関投資家の視点についても理解する。
- ・上記をふまえ、今後あるべきコーポレートガバナンスについて、自分なりの考えを構築する。

【概要】 企業が持続的に成長していくためには、コーポレートガバナンス（企業統治）を適切に機能させる仕組みと運用が必須である。現代の企業は、株主価値を向上させるだけでなく、地域や社会への貢献や倫理的な経営が求められる社会的な存在となっている。この講義では、企業統治のあるべき姿や実態、今後の課題について、当局の要請や議決権行使助言基準の強化、機関投資家の視点も踏まえながら、経営者目線のコーポレートガバナンスを学ぶ。

531238 イノベーションマネジメント

【到達目標】

- ・イノベーションという概念、および基礎的な理論を習得する。
- ・具体的なイノベーションの事例を基に、習得した理論を応用しながら、なぜ、どのように創出され、社会に広く普及したのか、その論理を検討し、周囲の受講生と議論できるようになる。
- ・こうしたイノベーションを実現する上で、どのような組織的および社会的な抵抗があったのか、それらに対してどのように対応していったのか、さらには、イノベーションによって生じた社会や経済（企業、産業）における問題や欠点についても理解できるようになる。

【概要】 この講義では、経済的価値をもたらすイノベーションが創出され、社会に広く普及するプロセスを、戦略論、組織論、マーケティング、さらには経営学を超えて、経済学や社会学の観点から検討していく。なぜ、このイノベーション活動は成功して、成果が経済や社会に大きなインパクトをもたらしたのか（逆に失敗したのか）、そこにはどのような論理があったのかを考える。特に近年注目されている主要なトピックとして、オープンイノベーション、産学官連携、プラットフォーム、地域イノベーションなどの問題も扱う。

531239 起業論

【到達目標】

- ・起業論・アントレプレナーシップに関する考え方や代表的理論・分析フレームワークを理解し、事例に即して説明できるようになる。
- ・経営学の周辺知識と起業論、アントレプレナーシップの諸概念とを結びつけることで、アントレプレナーシップや起業プロセスの特質を理解できるようになる。
- ・起業することの特質や意義、課題を理解し、起業の将来展望を考察できるようになる。

【概要】 この講義は、起業論を初めて学ぶ学生を対象として、その基本的な考え方を学修することを目的とする。具体的には以下の2点についての学修を行う。第1に、独立起業だけを対象とするのではない、アントレプレナーシップ（企業家精神）という考え方の広がり学び、アントレプレナーシップの基本概念に関する理論や分析フレームワークを習得する。その際、企業家（起業家）の事例を適宜取り上げることで、起業活動の特質を検討する。第2に、起業と経済活動との関係を理解した上で、事業機会の発見やビジネスアイデアの創出から、ビジネスモデルの構築、資金調達などに至るまでの、起業プロセスの全体像とそれに関わる経営学関連分野の諸理論・概念について学修する。

531240 中小企業論

【到達目標】

- ・中小企業概念とその社会における位置付けや役割を理解し、特に大企業との相違を説明できるようになる。
- ・グローバル化や情報化の進展、イノベーションによる競争の激化といった経営環境の変化

が中小企業の経営に与える影響を理解する。

- ・中小企業に関する基本的な理論を習得するとともに、実際の事例を通して中小企業のマネジメントの実態を理解し、実際の現場で活用可能な知識やスキルを獲得する。

【概要】 メディアは大企業に注目を集めがちだが、グローバルニッチトップ企業のような優れた中小企業も決して少なくない。特に製品やサービスの開発において、創造的な中小企業が数多く観察される。この講義では、そのような創造的日本企業（主に中小企業だが理解のため大企業との比較検討を含む）について、経営学の予備知識からじっくり考察を加え、実務に携わる企業人（経営者・実務家）を招いて実体験を伺う機会も設けながら、受講者の社会的活動の現場で活用可能な教養を深めることを目標とする。

531241 ソーシャルビジネス論

【到達目標】

- ・企業の社会的責任や CSR とは何かを説明できるようになる。
- ・企業、社会および法制度に関する視点から、社会的に責任ある経営について理解する。
- ・将来に亘って成長が可能となる、責任ある競争力をもった企業の経営について議論できるようになる。

【概要】 現在はグローバルレベルで持続可能な経済・社会のあり方が問われている。そのような経済、社会の中では、企業に期待される役割や責任（CSR）も変化しつつある。企業のガバナンスにおいても、株主や従業員との関係性の議論を超えて、広くステイクホルダーを捉えた上で、社会や法制度との関係性を考える必要がある。この講義では、そうした視点を持ち、実際の現在の企業が抱える社会的問題を、具体的な事例も用いながら検討していく。

531242 環境経営論

【到達目標】

- ・現代の企業や組織が直面する環境問題について理解する。
- ・CSV 経営や ESG 経営といった、企業や組織が取り組む実践的背景や理論的背景に関心を持つ。
- ・企業や組織が果たすべき役割を理解した上で、社会課題の解決と利益の追求を両立させるマネジメントのあり方を提案できるようになる。

【概要】 この講義では、環境問題と企業経営の関係性を扱う。現在は、環境問題への対応は企業にとって単なるコストではなく、新たな事業機会を見出し、競争優位性に結びつくといった、より積極的な視点から社会課題の解決と利益の追求を両立させる考え方が定着してきている。こうした視点を概念的に理解した上で、この講義では企業の環境問題への対応をテーマに、特に CSV 経営や ESG 経営について実際の企業の事例を交えながら検討していく。

531243 経営史

【到達目標】

- ・近現代における経営史に関する専門知識を習得する。
- ・近現代における企業家の役割や機能を理解する。
- ・歴史的事実の多面的な見方、および歴史学的な分析方法を習得する。

【概要】 この講義では、経営の歴史を学ぶことを通して、資本主義の発展およびそれに貢献した企業家の役割や機能について考察する。特に過去の著名な企業家が、自身の企業の成長のみならず、どのように産業の発展に寄与し、ひいては社会や経済に大きなインパクトをもたらしたのかについて、その歴史的なプロセスを理論的に検討していく。経営の歴史を学ぶことは、将来の企業の成長や発展を担う企業家にとっても重要なインプリケーションともなる。

【地域デザイン】

531244 実践的研究計画法（研究計画）

【到達目標】

- ・現地調査等、社会課題の解決につながる実践的な研究方法を理解する。
- ・さまざまなステークホルダーが関わる現場での研究、調査に必要な研究計画方法やコミュニケーションスキルを身につける。
- ・自らが適切な方法で現地調査実践の計画を立てることができる。

【概要】 社会と直接的につながる現地調査の方法等、適切なアカデミックスキルに基づいて研究計画を立てていく方法論について、グループワークを通して学ぶ。学生自らが、社会の現場の課題について探求し、考察していく力を養うと同時に、社会の現場でさまざまなステークホルダーと関わり合いながら適切な方法で調査を実践できるような基礎を習得する。この一連には、学外の関係者との連絡や交流も含まれ、こうしたプロセスを通して、卒業論文研究にも必要な調査スキルやコミュニケーションスキルを習得していく。

531245 実践的研究計画法（研究構想）

【到達目標】

- ・現地調査等、社会課題の解決につながる実践的な研究方法を現場で行うことができる。
- ・さまざまなステークホルダーが関わる現場での研究、調査に必要な研究計画方法やコミュニケーションスキルを実践で応用する。
- ・年間を通して実践してきた現場での調査や探求活動について、アカデミックスキルに基づいて発表、報告ができる。

【概要】 グループワークやプロジェクトベースドラーニングを通して、前期に学んだ適切

なアカデミックスキルやコミュニケーションスキルを現場での実践に活かす。外部のステークホルダーとも積極的に関与し、産官学協働による課題解決の重要性を現場で学び、机上での学びと現場での学びの相違を理解することで、将来的に学術的な学びを社会へ実装するノウハウを習得していく。こうした一連のプロセスを通して、卒業論文研究にも必要な調査スキルやコミュニケーションスキル、また他者への発表や報告のためのスキルも習得していく。

531246 コミュニティ調査実習（企画・立案・設計）

【到達目標】

- ・コミュニティ社会調査のリテラシーを再確認する。
- ・コミュニティ社会調査という学問的な方法を身につける。
- ・コミュニティ社会調査法の知識を得る。
- ・コミュニティ社会調査の企画立案ができる。

【概要】 自己形成、市民参加、ケアやサポート、イノベーション、共生とツーリズムなどの実践領域において社会調査を行うことの意味とは何かについて考察するとともに、各領域で採用される社会学的な調査方法の基礎について学ぶ。各領域における調査の方法論や調査報告書などの先行研究を読み解き、社会学的調査計画の立案、調査票の設計などの方法論を理解する。その上で、学生自らが、実際に社会調査を設計し、実施していく。こうしたプロセスを経て、社会学の理論と調査の方法論を学び、それを自ら実践できるようになることを目指す。

531247 コミュニティ調査実習（実査と分析）

【到達目標】

- ・フィールドワーク、観察、質問紙によるインタビューやアンケートなどの社会学的調査法について学び、実際にデータ収集や分析を行いながら、社会調査を実践的に理解する。
- ・テーマに関する文書資料や書籍の解読などを通じて、事例研究を中心とした社会調査報告書のまとめ方を理解する。
- ・調査結果を分析・整理して、報告書を作成する。

【概要】 自己形成、市民参加、ケアやサポート、イノベーション、共生とツーリズムなどの領域における調査研究の理念、方法論などの理解に基づき、学生自らによって計画された調査、設計された調査票をもとに、調査研究を実施していく。調査結果データを整理し、分析を行う。採用する調査方法の特徴を理解し、結果の解釈、報告書の作成まで一連の社会学的調査法を実習を通して習得していくことを目指す。自ら質問票の設計、聞き取り調査、データの加工などを行うことで、社会調査の方法を卒業研究に用いるための準備とする。

531248 地域政策とまちづくり

【到達目標】

- ・近代日本における地域政策の歴史を理解する。
- ・人口減少時代における公民連携まちづくり事例を知る。
- ・グループワークを通じてまちづくりの理論と実践を結びつけて考察できるようになる。
- ・学際的に社会学の方法論を運用できる。

【概要】 近代日本における地域政策の歴史を概観した上で、地域政策の理論とその実践事例について講義する。実践事例の講義では、具体的な政策手法や政策評価の方法などを学び、地域の課題解決に必要なスキルを理解する。講義内容についてグループワークによる知識の整理と議論を行うことによって、地域政策とまちづくりの関係について理解を深める。さらに、学生自らがグループワークを通じて地域の課題を分析し、まちづくりのアイデアやそれを実現させるための政策をプレゼンテーションによって提案する。これらを通じて、まちづくりの理論と実践を結びつけ、参加や協働の経験をし、コミュニケーション能力も磨くことを目指す。

531249 コミュニティとジェンダー

【到達目標】

- ・コミュニティ概念を社会的に理解する。
- ・コミュニティとの関わりでジェンダーの基本問題を正しく理解する。
- ・問題解決のためにジェンダーの視点を導入する意義について理解する。

【概要】 少子高齢化やグローバル化の影響下にある日本の都市空間においては、近代家族の概念に下支えされた性別役割分業が終焉を迎えつつある。本授業では、コミュニティにおいて展開される住民の生活実践、そして、これらを通じたコミュニティ内外の関係性の変化について、ジェンダーの視点から考察していく。また、自己、家族、地域、学校、職場、国家、国際社会などのさまざまな文脈において生じるジェンダー問題について、社会的な理解を深め、より良いコミュニティの構築には何が必要なのかを提案できるようになることを目指す。

531250 創造都市論

【到達目標】

- ・創造都市論の考え方を理解する。
- ・グローバル都市間競争に向けた創造都市に関する先進事例を知る。
- ・グループワークを通じてまちづくりの理論と実践を結びつけて考察できるようになる。
- ・学際的に社会学の方法論を運用できる。

【概要】 都市の創造性と文化的魅力を社会的な視点から探究していく。創造都市論の考え方を学んだ上で、都市の文化遺産やクリエイティブ産業の役割を探究し、それらが都市

のイノベーションや経済発展に与える影響についての理解を深めていく。また、グループワークを導入し、創造都市論の核心的な理論を理解した上で、都市における創造的なプロセスやポテンシャルを具体的に学生自ら考察していく。こうしたプロセスによって、創造都市論の理論と実践を結びつけると同時に、協働やコミュニケーション能力も磨いていくことを目指す。

531251 余暇ツーリズム論

【到達目標】

- ・ ツーリズム（観光）に関する基本用語を理解し説明できる。
- ・ 観光立国を目指す意義を説明できる。
- ・ 観光振興が及ぼす影響と課題について具体例に基づいた考察ができる。

【概要】 国や地域を支える重要な手段としてのツーリズムの特徴・可能性・課題について理解を深めることを目的とする。ツーリズムの定義、観光経済や観光消費行動の特徴、観光産業や観光ビジネスの特徴と動向、観光振興がもたらす国・地域への社会的・経済的な影響、国や自治体の観光政策の変遷と最新動向について講義する。ツーリズムにおける新しい動向についても事例を用いて講義を行い、これらを通じて、ツーリズムをどのように振興していくべきか、観光地に負荷をかけない望ましい旅行行動とは何か、地域コミュニティと観光の関係はどうあるべきかについて考察する。

531252 ツーリズムとジェンダー

【到達目標】

- ・ ジェンダーの視点から、問題になるツーリズムのキートピックを理解する。
- ・ ツーリズムにおける女性の意味について、社会学的に理解する。
- ・ ジェンダーとツーリズムについてのキーワードを理解し、説明できるようになる。

【概要】 近年、観光産業の促進にともなう地域資源の開発や、インバウンド政策などが国家的優先課題としても注目されている。この授業の目的は、こうしたツーリズムをめぐる基本的な議論を足掛かりに、ジェンダーの視点から考えることである。ジェンダーの視点は、従来よりツーリズムにとっても重要なものとして社会学的に分析がなされてきた。たとえば、地域資源へのアクセス権に男女差があること、観光産業の利益配分などにおけるジェンダー格差、さらにはツーリストに訴えかけるツーリズムそのものにジェンダーのイメージ演出があることなど、こうした現象を事例としてジェンダーの視点を通じてツーリズムを捉えることを目指す。さらにツーリズムと女性たちの関わり、観光産業に関わる女性たちの意味などについて考察していく。

531253 地域社会論

【到達目標】

- ・グローバル化する地域社会の現況をめぐる社会科学的な基本概念を身につける。
- ・地域社会での政治参加、経済活動、ボランティアネットワークの形成などについての事例分析などを通し、身近な社会問題の解決の手がかりになるような基礎知識を身につける。

【概要】 日本の社会学は、日本の伝統的な地域社会構造、現代日本の地方都市や中山間地域社会のかかえる問題を明らかにし、他方で高度経済成長以降の日本の地域社会の変動、現代の大都市のかかえる諸問題などを考察してきた。さらに、現代社会のグローバル化をふまえた、新しい研究が展開され始めている。すなわち、地域の衰退（限界集落、離村、廃村など）、都市貧困層（若 64 年未就労者、高齢者、エスニックマイノリティなど）の増大などが問題となり、解決のために自立支援と共生社会開発の方法が模索されている。こうした地域社会研究、地域文化研究などの成果を紹介しながら、グローバル化する地域社会の問題を考察する。

531254 サステナビリティと地域社会

【到達目標】

- ・現在の地球が直面している環境問題の多様性、複雑性をグローバルな視点で理解し、それらがローカルな課題とどのように関連しているのか日本語、英語双方で読解し、説明できる。
- ・「持続可能な開発」において「地域社会」がどうあるべきなのか、考察・議論を通して日本語、英語双方で説明できる。
- ・さらに、こうした文脈において関連する政策を理解し、自身の見解を日本語、英語双方で説明できる。

【概要】 地球環境問題、資源の不公平な配分、人権問題、格差社会、従来の経済システムの限界など、さまざまな環境・社会・経済的問題をグローバルな視点で理解した上で、それらがどのようにローカル（地域的）な課題と関連しているのかを学んでいく。また、そうした課題解決に地域社会がどのような役割を果たせるのか、社会学的な視点から議論し、考察していく。英語の教材と英語での対話を全授業に取り入れ、世界の共通語で諸外国の人たちともそれらの知見について議論ができるようになることを目指す。

531255 ソーシャル・キャピタル論

【到達目標】

- ・ソーシャル・キャピタル概念の社会科学的な意義を理解できる。
- ・考え方の主要な応用例についての概説的知識をもつ。
- ・具体的な事例について、ソーシャル・キャピタルの視点から分析できる。

【概要】 信頼、道徳、規範、習慣、ネットワークなどのさまざまな人と人とのつながりをあらわすソーシャル・キャピタル概念を、コミュニティ構想、コミュニティ資源という観

点から考える。経済、経営、地域デザインに関わる社会科学の理論を用い、資源動員の実践の現況について概観し、福祉、教育、政治、企業経営など、さまざまな社会問題との関わりで論じられているソーシャル・キャピタルの主要キートピックを理解する。さらに、コミュニティ実践、国際比較の視点を踏まえつつ、事例的な分析、考察を行う。

531256 コミュニティデザイン論

【到達目標】

- ・コミュニティデザイン論の考え方を理解する。
- ・コミュニティデザインの考え方を地域実践に活かすための方法を知る。
- ・グループワークを通じてコミュニティデザインにおけるワークショップ手法の理論と実践を理解する。
- ・学際的に社会学の方法論を運用できる。

【概要】 コミュニティにおける共創を通じたデザイン手法に焦点を当て、その理論と実践方法を理解する。現代のコミュニティデザインに欠かせないワークショップ手法をはじめ、参加型を促進するプロセスやファシリテーション技術、多様なステークホルダーとのコミュニケーション手法についても学ぶ。さらにグループワークを通じて、ワークショップの実施方法を実践的に習得していき、ステークホルダーとの協力やコミュニティ内での関係構築のスキルの基礎を身につけていくことを目指す。これらのプロセスの中で学生自らが気づいた課題を社会的視点から分析し、その解決方法を検討することによって、課題解決能力も醸成していく。

531257 地理学とジェンダー

【到達目標】

- ・意思決定、実践、資源・情報へのアクセシビリティなど、社会科学的キーワードとともにコミュニティを理解する。
- ・ジェンダー地理学をめぐるキートピックを理解する。
- ・ジェンダーの視点から、さまざまな社会的テーマ、関連する議論について考察することができる。

【概要】 人文地理学において蓄積された研究成果を通じて、多様な人々を包摂する場所、空間、社会の構築について考える。社会には多様なアクターが存在するが、女性をはじめマイノリティなど可視化されない人びとも多く存在する。本授業では、都市や農村などのさまざまな場所、空間におけるこうした人びとの意思決定や実践、資源や情報へのアクセスなどに焦点を当てながら、人びとと場所・空間との関わり、場所や空間の変化、そこで生み出される可能性と課題についてジェンダー地理学の視点から学んでいくことで、こうした社会課題の解決策について考察、提案できるようになることを目指す。

531258 インバウンド・ツーリズム論

【到達目標】

- ・インバウンド・ツーリズムの意義と国策である理由を説明できる。
- ・インバウンド・ツーリズムの基本用語を理解し説明できる。
- ・わが国のインバウンド・ツーリズム振興の課題を理解し、今後の方向性や改善策について自分なりのアイデアを構想し説明できる。

【概要】 インバウンド・ツーリズム（訪日外国人旅行者誘致）に関する基礎知識、世界の国々がインバウンド・ツーリズムに積極的に取り組む理由と状況、インバウンド市場の国際競争の実態、わが国のブランディングとプロモーション、商品造成・流通構造、国内外のインバウンド観光政策、地域における取組について、具体的な事例を用いて講義する。また、インバウンド・ツーリズムに関する様々なデータを活用し、訪日外国人旅行者のプロフィール、インバウンド・ツーリズムが及ぼす社会的・経済的影響や課題を分析する。

531259 持続可能な観光地域づくり

【到達目標】

- ・観光地域づくりにおける持続可能性についての基礎知識を理解し説明することができる。
- ・グローバル化に対応した観光地経営の要諦を理解し、その中核的な役割を果たす DMO (Destination Management Organization) について理解し説明することができる。
- ・地域政策における観光の意義と役割、可能性、課題を考察し自分なりの言葉で説明することができる。

【概要】 人口減少、少子高齢化に加えて、グローバル化したわが国の都市や観光地には、急激な市場環境の変化に対応しつつ、持続的かつ安定的な経営が求められている。持続可能な観光地域づくりを実現させるためには、地域全体をマネジメントする観光地経営の導入が世界の潮流となっており、その舵取り役として DMO (Destination Management Organization) の活躍が必須である。観光分野における持続可能性とは何か、観光地域経営としてどのような取り組みが行われているのか、国内外の DMO の具体的な取り組みとはどのようなものかを分析し講義する。

531260 環境政策概論

【到達目標】

- ・世界レベルでの環境法規の基本原則を理解し、説明できる。
- ・日本の環境に関する法規や政策の基本を理解し、説明できる。
- ・国際条約と国内法の関連性を理解し、説明できる。
- ・法規制以外の制度が果たす役割について認識できるようになる。
- ・他国の事例についても知識を得ようという興味を持つようになる。

【概要】 公害問題から自然破壊、気候変動にいたるまでさまざまな形態とスケールで発生

する環境問題に対しては、法律による規制のほか、ボランティアな市民参加を活かした制度、経済的インセンティブを活かした制度など、さまざまな法制度や政策を複合的に用いる必要があることを学ぶ。まず法律とはどういうものか、という基本を理解した上で、環境政策の基本原則を学び、代表的な国際条約や環境法規の概要、および環境政策の手法について知識を習得していく。

531261 世界遺産学 A

【到達目標】

- ・講義でとりあげた日本・アジア圏の世界遺産の歴史的背景や文化的意義について基礎的な知識を習得する。
- ・講義でとりあげた世界遺産の保護と活用をめぐる諸問題について基礎的な知識を習得する。
- ・世界遺産学で用いられる多様なアプローチの方法を理解する。

【概要】 日本・アジア圏の世界遺産をいくつかとりあげて、それらの歴史的背景や文化的意義、保護と活用をめぐる諸問題について論じる。こうした論点から世界遺産の過去と現在を理解して将来を展望するためには、人文学・社会科学・自然科学にまたがる学際的な知見に加えて、異文化理解や国際協力といった国際的視野も求められる。この講義では、世界遺産を学ぶうえで必要となる多様なアプローチの方法について紹介しつつ、とくに歴史学とツーリズムを切り口にして、世界遺産をめぐる諸問題への理解を深める。

531262 世界遺産学 B

【到達目標】

- ・講義でとりあげた欧米圏の世界遺産の歴史的背景や文化的意義について基礎的な知識を習得する。
- ・講義でとりあげた世界遺産の保護と活用をめぐる諸問題について基礎的な知識を習得する。
- ・世界遺産学で用いられる多様なアプローチの方法を理解する。

【概要】 欧米圏の世界遺産をいくつかとりあげて、それらの歴史的背景や文化的意義、保護と活用をめぐる諸問題について論じる。こうした論点から世界遺産の過去と現在を理解して将来を展望するためには、人文学・社会科学・自然科学にまたがる学際的な知見に加えて、異文化理解や国際協力といった国際的視野も求められる。この講義では、世界遺産を学ぶうえで必要となる多様なアプローチの方法について紹介しつつ、とくに歴史学とツーリズムを切り口にして、世界遺産をめぐる諸問題への理解を深める。

531263 都市フィールドワーク

【到達目標】

- ・都市フィールドワークと関わる質的調査方法の概要を理解する。
- ・研究課題と研究方法の関係を適切に判断し、選択することができる。
- ・既存の研究論文を批判的に検討し、自らの研究計画を立てられる。

【概要】 都市フィールドワークの学問的位置づけ、コミュニティ研究との関わり、現代のまちづくりなどとの関わりにおける学問的な意義などについて社会学の方法論とともに学ぶ。都市フィールドワークを中心としながらも、参与観察法、ライフヒストリー分析などの質的データの分析法（質的データ分析ソフトの使用法を含む）などの活用も視野に入れ、都市フィールドワークへの応用を考える。社会調査の一般的類型とされている「量的調査と質的調査」の特徴を理解したうえで、(1)データの性質、(2)データの収集方法、(3)データの分析方法といった側面から、質的調査法の特性と課題を解説する。

【法律】

531264 経済法

【到達目標】

- ・経済法の中でも国際経済法を中心に基礎的な知識を習得する。
- ・独力で社会に実在する利益の対立状況を把握できるようになる。
- ・独力で利益対立を調整する上で必要な法的思考方法を応用できるようになる。

【概要】 この授業では、経済法の中でも、国際社会における国家や企業の経済活動から生じる利益調整問題を包括的に取り扱う国際経済法を主に論じる。競争法、金融法、租税法等、広範な主題に関わる国家法と国際法、私法と公法、実体法と手続法等につき法学初級者向けに基礎知識を説明する。個別のトピックスとしては、近年問題になってきている、国境を越える労働者を取り扱う国際労働法、知的財産権重視政策の基盤である国際知的財産法、国際的な環境対策のための国際環境法などを取り上げる。

531265 企業法

【到達目標】

- ・商法の重要分野の知識を体系的に習得する。
- ・会社法制度に関する基礎的な知識を習得する。
- ・経済学や経営学的な観点から、「市場」や「法制度」の役割について理解し、説明することができるようになる。

【概要】 この講義では、商法の重要分野について、一通りの知識を体系的に習得することを目標にする。単に「法律がどうなっているか」だけではなく、「なぜそうなっているか」という点を重視して理解する。もっとも、企業に関わる法は幅広く存在し、その全てを網羅的に学習することは不可能である。そのため、この講義では、特に重要と思われる分野、会社の運営に関する法（会社法）および証券市場に関する法（金融商品取引法）を中心に

取り上げる。

531266 労働法

【到達目標】

- ・労働法に関する知識を体系的に習得する。
- ・自身が現実に雇用問題に直面した際に、労働者として自己にいかなる権利があり、どのように解決を図ったらよいのかについて正しく対応できるようになる。

【概要】 この講義では、まず、国民の8割以上を占める雇用者に関する法制度である労働法の歴史と基本的仕組みを概説し、労働者の権利と義務といった労働法の基本的な考え方を明らかにする。その上で、労働契約、賃金、人事異動、労働時間、ハラスメント、解雇、団体交渉など、労働のあらゆる場面に対応する法知識の習得を目指す。また、女性と雇用社会に関する課題や近年大きな問題になっている非正規労働の問題を重視する。学生にとっても、アルバイトを通じて身近な問題である労働の問題を法律的に考えることができるようになることを目指す。

531267 行政と法

【到達目標】

- ・行政法の基本的な理念や目的、基本原則を理解する。
- ・行政法に関連するその他の法規を知る。
- ・行政機関の裁量や法的責任などを理解する。
- ・まちづくりにおける行政の法的枠組みや役割を説明できる。
- ・行政が市民参加を促すための方法論を理解する。

【概要】 行政法を基礎として、関連する法規も含め、行政機関の裁量、法的責任など行政の法的枠組みについて広く学んでいく。また、行政機関の権限や手続き等の具体的な実践に関わる要件も理解していくことを目的とする。また、まちづくりや地域社会の再生に重要な行政の役割を、さまざまな事例を通して学んでいく。さらに、持続可能な社会の創生に不可欠である市民参加について、行政がどのように推進していけるのか、情報公開や協議会等の政策的仕組みとそれに関連する法的枠組みを理解することを目指す。

531268 市民参加と法

【到達目標】

- ・市民参加と関わる関連法規の概要を知る。
- ・市民参加と関わる法律問題のキートピックを理解する。
- ・市民参加におけるリーガルマインドについて理解する。

【概要】 ひとづくり、ものづくり、まちづくり、暮らしづくり、職場づくり、政治参加、国際協力、平和貢献など、現代人が市民参加の現場において出会う法律的な諸問題の概要

を理解する。グローバル化という社会変動なども視野に入れながら、市民参加と関わる法制度の成立、展開、今後の見直しなどの社会的な背景を、コミュニティ構想の観点から学んでゆく。条文や法解釈の方法に特化するのではなく、コミュニティ実践のなかで出会う法的な問題を知り、法律的な知識を参照する方法について学ぶ。

■基盤演習

531301 基礎演習Ⅰ

【到達目標】

- ・アカデミック・スキルの基礎を全般的に理解する。
- ・理解したスキルを実践し、学術的なリーディングやライティング、プレゼンテーションが出来るようになる。
- ・習得したアカデミック・スキルを、他の授業においても活用できるようになる。

【概要】 大学における学問を修めるために必須であるさまざまなアカデミック・スキルの基礎の習得と、積極的な学習態度を醸成することを目的とする。具体的には研究の方法論、論理的思考と批判的思考、研究倫理、情報技術リテラシー、学術的なリーディングとライティング、プレゼンテーション、などについて幅広く学んでいく。少人数の演習形式にて議論や体験を繰り返していくことで、こうした技能を習得し、その後の大学での学びに応用できるようになることを目指す。

531302 基礎演習Ⅱ

【到達目標】

- ・さまざまな学習課題を適切なアカデミック・スキルを用いて実践できるようになる。
- ・習得したアカデミック・スキルを用いて、短期研究の計画と遂行ができるようになる。
- ・アカデミック・スキルを用いて実施した研究を他者に適切な方法でコミュニケーションでできるようになる。

【概要】すでに基礎演習Ⅰにて学んだ基礎的なアカデミック・スキルを活かしながら、自ら小規模な研究テーマを設定し、研究に要する一連の試行を実践していく。具体的には、情報収集、文献レビュー、既往研究整理、調査方法のデザイン、実現可能な研究スケジュール、データの分析方法、結果の整理と考察、などについて、すべて学生自身が計画、実践していく。最終的に、学会発表と同様の形式による成果発表会にて、適切な学術的な手法を用いたレジュメの作成と口頭発表を行うことで、一連のアカデミック・スキルの集大成とする。

531303 2年次拠点実習Ⅰ

【到達目標】

- ・課題解決型の学習課題を設定する。
- ・学外学習を含む学習計画を作成する。
- ・学習計画の内容を説明することができる。
- ・調査研究の進捗管理を自ら行うことができる。

【概要】 「2年次拠点実習Ⅰ」および「2年次拠点実習Ⅱ」を通じてアクティブラーニングを実践するものであり、学生は、まず、経済、経営、地域デザインの分野で身につけた社会科学的な知識に基づき、自分なりの課題解決型の学習課題を設定する。次に、学習課題を研究するために、学外学習を含む学習計画を立て、その内容を教員や学生と検討して改善する。作成した学習計画に基づき、調査・研究を進め、その進捗管理を自ら行う。学生の学びを進めるため、必要な基礎知識の講義、きめ細かな指導、ワークショップやグループワークでの検討の場の設定などを行う。

531304 2年次拠点実習Ⅱ

【到達目標】

- ・報告書作成のスキルを身につける。
- ・プレゼンテーション能力を身につける。
- ・質疑応答、討論の能力を身につける。

【概要】 学生は、「2年次拠点実習Ⅰ」で策定した学習計画に基づき、学外学習を含む調査研究を行い、その成果を報告書にまとめる。報告書の内容をプレゼンテーションし、教員や学生等と討議を行う。学生の調査研究が円滑に進むようにきめ細かな指導を行うとともに、報告書作成やプレゼンテーションのスキル等を講義し、プレゼンテーション・質疑応答・討論の場を設定する。あわせて、学生の学外学習についてのリスク対応等に配慮する。

■発展演習

531401 3年次演習Ⅰ

【到達目標】

- ・テキスト、文献、資料の内容を正確に理解する能力を養う。
- ・報告や質疑応答を通じて、互いに討論をする能力を身につける。
- ・自分の問題意識を発見し、課題を設定する能力を身につける。

【概要】 3年次以降の演習は、経済、経営、地域デザインの3つのコース、さらにコース内に設定された専門分野から自ら選択し、専門性を高めることになる。「3年次演習Ⅰ」は、1・2年次の講義や演習で培った能力を自分の興味関心のある分野に応用し、現実の社会課題や企業経済活動を分析する能力を身につけることを目的とする。同じ興味関心を持ったメンバーとの議論を通じて理解を深め、「研究」への第一歩を踏み出すことが期待される。

531402 3年次演習Ⅱ

【到達目標】

- ・テキスト、文献、資料の内容を正確に理解する能力を養う。
- ・報告や質疑応答を通じて、互いに討論をする能力を身につける。
- ・自ら課題を設定し、分析方法や解決方法を導き出す能力を身につける。

【概要】 「3年次演習Ⅱ」は、「3年次演習Ⅰ」に引き続き、これまでの講義や演習で培った理論や調査・分析ツールを用いてそれぞれの専門分野に応用し、現実の社会問題や企業経済活動を分析できるようにすることを目的とする。特に、4年次での卒業論文作成に向けて、各分野の知識の習得に努めることとなる。同じ興味関心を持ったメンバーとより深く学び、議論を通じて各自の意見の相違を認識し、お互いに尊重しつつ、理解を深めることが期待される。

531403 4年次演習Ⅰ

【到達目標】

- ・適切な文献を選び、内容を正確に理解する能力を養う。
- ・報告や質疑応答を通じて、互いに討論をする能力を身につける。
- ・自ら設定した課題に対して、適切な分析や解決方法を適応することが出来る。

【概要】 「4年次演習Ⅰ」は、3年次演習で選択した専門分野の知識をさらに深化させ、各自が研究テーマを絞って、より専門的な学習を行うとともに、演習参加者との議論を通じて、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成とも連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集と整理、適切な分析手法の習得、論文の構成の立て方など、論理的・客観的な学術論文を執筆するための能力を養うことが期待される。

531404 4年次演習Ⅱ

【到達目標】

- ・自ら設定した課題に即した文献を選び、内容を正確に理解する能力を養う。
- ・科学的知見に基づいた、客観的な議論を行うことが出来る。
- ・自ら設定した課題に対して、首尾一貫した論理を構成することが出来る。

【概要】 「4年次演習Ⅱ」は「4年次演習Ⅰ」に引き続き、各自が決定した卒業論文のテーマに沿って、当該分野の知識をさらに深化させるとともに、演習参加者との議論を通じ、主体的に研究を進展させる能力を養う。卒業論文の作成と連動させながら、先行研究のリサーチ、必要な資料・文献やデータの収集、整理、分析を行う。学術論文執筆に必要な、自らの主張を科学的根拠に基づいて、論理的・客観的に述べる能力を身につけることを目的とする。

■卒業論文

531501 卒業論文

【到達目標】

- ・自ら研究テーマを設定し、資料・文献を正確に理解する能力を身につける。
- ・問題を提起し、資料・文献をもとに仮説を立て、これを調査・実習等により検証して、明確な根拠に基づいて文章、論文を書く力を養う。
- ・卒業論文の報告を通じて、プレゼンテーション能力およびコミュニケーション能力を養う。

【概要】 「卒業論文」はこれまで取り組んだ講義や演習を通じて身につけた知識や分析能力を最大限用いて、自らの興味関心から発する問いに対する答えを明らかにするものである。論文の作成にあたっては、まず各自が研究テーマを設定し、先行文献を整理したうえで、テーマに即した分析手法を用い、結論を導き出すことになる。その過程において、研究成果に関する報告を行い、第3者からのコメントに対応していく中で、科学的知見に基づいた、客観的な視点に基づく成果を得ることになる。卒業論文提出後は副査1名を交えて口述試験を行う。